



ホッピーだより No. 440

2021年7月1日発行

むかわ町穂別博物館

〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6
Tel 0145-45-3141 HP(<http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>)
Facebook(@HobetsuMuseum)

2020年度の主なクリーニング資料

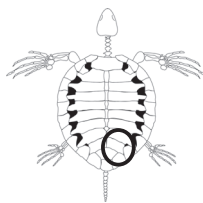


ウミガメ : HMG-2101 の背甲側 (左)・腹甲側 (右)

京都大学大学院に在学していた学生ら（荷福 洗・松永 豪・西村智弘）と0Bの小松俊文 准教授（熊本大学、当時）によって2005年に採集・寄贈された平取町産の後期白亜紀ウミガメ化石です。背甲・腹甲が生きていた時と同じような状態で産出しました。地層から採集された標本で、背側が上で産出しました。



ウミガメ (HMG-1474) の背甲と産出したおおよその部位 (イラスト)



大和治生氏（札幌市）がむかわ町穂別で採集・寄贈された後期白亜紀のものです。



ウミガメ (HMG-1216) の頸椎。左側が前方。

堀田良幸氏（むかわ町穂別）が寄贈されたものです。首長竜ホベツアラキリュウ産地の近くで産出していたこともあり、首長竜のものと考えてられていましたが、クリーニングした結果、ウミガメの頸椎のようでした。

今回紹介した HMG-2101、1216 は中村学芸補助員が、HMG-1474 は阿部学芸補助員がクリーニングしました。

学芸員 西村智弘

カムイサウルスのこれまで⑤



2013年7月の記者発表

左：恐竜発見者の堀田良幸氏

右：北海道大学総合博物館

小林快次 准教授（当時）

恐竜の全身骨格が地層に埋没している可能性が出てきましたが、発掘はすぐには始められませんでした。骨格が埋没している地層があった場所は北海道が管理する森林で、発掘のための樹木の伐採・大掛かりな掘削を行うにあたって許可を取る必要がありました。また、骨格が発見されたのは林道脇の崖だったのですが、その林道は十数年以上に渡って使われていなかったため、沢によって寸断されている箇所もありました。そのため、恐竜化石を運び出すための林道の補修をする必要がありました。

櫻井学芸員（当時）が中心となり手続きを進めていましたが、発掘の許可を取ることと林道の補修作業、発掘予算の確保のために、1年以上の時間がかかりました。そして恐竜発掘の目途がついた2013年7月に「北海道で4例目の恐竜化石が発見されたこと」と「9月から大規模な発掘作業を行う」ことを発表しました。

学芸員 西村智弘



補修前の林道



補修前の林道。点線が林道があった場所。
小沢によって、林道が寸断されていた。



林道の補修作業



苫小牧から約1時間半
札幌から千歳経由で約2時間
道東道むかわ穂別ICより約20分

むかわ町穂別博物館

開館時間 9:30 ~ 17:00
(最終入館 16:30)

| 観覧料 | 大人 | 小学生～高校生 |
|----------------|------|---------|
| 個人 | 300円 | 100円 |
| 団体 (10名様以上) | 200円 | 50円 |

小学生未満：無料
むかわ町の小学生～高校生：無料

2021年7月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

■ 休館日 ○ 町民無料観覧日 — 臨時休館

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一度に観覧できる観覧者の上限は40名とし、混雑時には入場制限を行う場合があります。また、告知期間の長さに関わらず臨時休館になる場合もあります。ご了承ください。